

市川自然博物館

2・3月号

(通巻72号)

だより

花Ⅵ『いろいろな花』 の特集



△ ミズタマソウの花

ふだんは見過ごしてしまうようなミズタマソウの小さな花も、拡大して見ると独特の形をしています。

*写真をカラーでご覧いただけます。 ホームページ版『博物館だより』もどうぞよろしく。
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>

花 VI 『いろいろな花』

の特集

花は、植物の顔とも言える存在です。花びら、萼（がく）、雄しべ、雌しべと、基本となるパーツは単純ですが、それらの形と組み合わせによって、多様な形が生み出されています。また、同じ仲間の植物は花の形が似ていることが多く、種類を見分ける上でも、花は重要なポイントになります。

スイカズラ

花は、花びらがくっついた筒状で、先端だけが切れ込んで分かれています。「合弁花」と呼ばれる花の基本的な形のひとつで、本種は先端が上下に分かれた二唇形（にしんべい）をしています。アサガオのようなラッパ状の花も、もちろん合弁花に属します。

（花：5月 スイカズラ科）



クサボケ

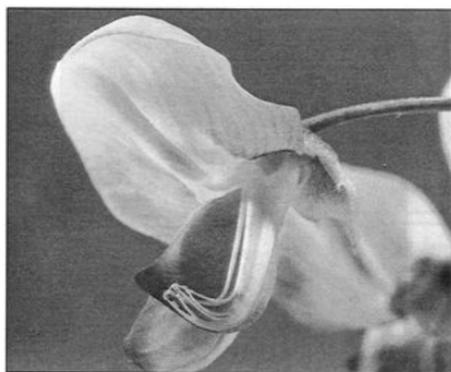
互いにバラバラの花びらをもつ形です。「離弁花」と呼ばれ、「合弁花」と同じく花の基本的な形のひとつです。合弁・離弁の違いは、双子葉植物を分類する上では重要なポイントとなります。離弁花には花びらの形がすべて同じものと異なるものがあり、本種などのバラ科やアブラナ科は前者、スミレ科やマメ科は後者に相当する場合があります。

（花：4月 バラ科）

マルバスマシレ

すみれ形と呼ばれる独特な形をしています。5枚の花びらは上2枚、横2枚、下1枚がセットになっていて、それぞれ上弁、側弁、唇弁という名前と呼ばれます。国内のスマシレ科の植物に限っていえば、花の形はすべてすみれ形をしています。海外では異なる場合も多いです。

(花：4月 スマシレ科)



フジ

マメ科の花は、多くが蝶形と呼ばれる形をしています。花びらは、上1枚、左右2枚、その内側にさらに2枚で、それぞれ旗弁、翼弁、竜骨弁と呼ばれます。写真は片側の翼弁と竜骨弁を除いたもので、竜骨弁に沿うようにして雄しべと雌しべがあるのがわかります。

(花：5月 マメ科)

ノアザミ

キク科の花は、小さな合弁花が集合してできています。筒状花と舌状花の2つのタイプがあって、ヒマワリでは中央に円く広く筒状花が集まり、外周を舌状花が縁取りしています。本種などのアザミ類の花は筒状花のみからなり、タンポポ類などの花は舌状花のみでできています。

(花：5月 キク科)





マムシグサ

花びらがやくではなく、仏炎苞（ぶつえんほう）と呼ばれる一種の葉によって、花の外形がつくられています。実際の花は、仏炎苞に包まれた内部にあり、ごく小さく多数あります。ミズバショウも同様で、外側の白い部分が仏炎苞、内側の棒状の部分に小さな花が集まっています。

（花：5月 サトイモ科）

クマガイソウ

ラン科の花は変化に富んでいて、さまざまな形をしています。中でも唇弁と呼ばれる、一番下側に位置する花びらの形は多彩で、本種では大きな袋状になっています。また、雄しべと雌しべが、くっついて1本の太い柱状になっていることも大きな特徴です。

（花：5月 ラン科）



キショウブ

写真では、左側の花びらからミツバチが中にもぐり込もうとしています。この時、ミツバチが止まっている部分は花びらですが、背になる部分は花弁状になった雌しべにあたります。雌しべが、花の外形を作りだすのに、ひと役買っているわけです。

（花：5月 アヤメ科）





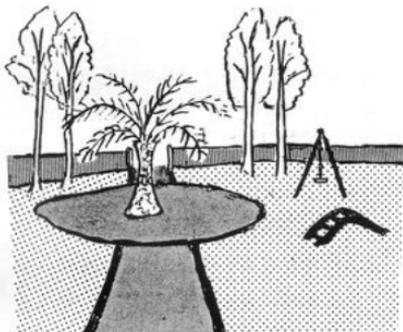
街かど自然探訪

おじゃまします!

みゆき ぎょうとく

南行徳・東海面公園のヤシの木

ヤシの木と言うと常夏の国を想像してしましますが、東海面公園の真ん中に大きなヤシの木がポツンと一本だけ立っています。このヤシの木はカナリーヤシと言って、寒さに強いヤシで、-5℃まで耐えられるそうです。この種類は、雌株と雄株があります。秋には1cm位の小さいヤシの実が、房状についている姿を見ることができるので、雌株だと分かります。雄株の花粉は、何処から風によって飛んで来ているのでしょうか？



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



イチョウウキゴケ

水生のコケ植物です。世界に幅広く分布し、わが国でも各地で普通に見られます。RDBにリストアップされたのは、おそらく主要な生育地である水田や湿地の減少が著しいことから、将来的な危険度が高いと想定されるためと思われます。

県内でもやや普通ですが、市内では田んぼや休耕田が年々減少し、見られる場所は少なくなっています。本来は、環境さえ維持されていれば、簡単に増殖するたくましさを備えた植物です。



コゲラ、シジュウカラ……

「イヌと子供2人連れて散歩しました。横並木でシジュウカラが2～3羽きて、次々枝から枝へと移動します。『シジュウカラは、集団で餌を捜しているのかな…』と言っているうちにコンコンコンと音がして、シジュウカラがいる枝の裏側からコゲラができました。斜めに回るように移動していき、2羽いました。」

—冬は、木々の葉が落ちていることもあって、町中でも野鳥が目につきます。

(情報提供：水垣麻理子さん)



むかしの市川

このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています。

(原則として回答の原文のまま)

・浜道の坂の中途では富士山(四季の)がよく見え隅田川の火花もよく見えた。家が高層住宅や空気のごとの為か、今はたまにしか見えない。尚大柏川には「うなぎ」「なまず」「しじみ」等が取れ「なまず」をとる蛙を餌にボカン釣をする人の姿がよく見られた。田

には「たにし」「どじょう」などよく取れた。(柏井町)

・匠堀から海までは田んぼと畑が広がっていた。川を利用して舟で稲を運んでいた。川ではシジミやフナやナマズがとれた。田んぼには冬になると海苔干し場があり、海苔を乾燥させていた。

(湊)

・大川では、うなぎ・こい・なまず・うな・どじょう・海老・メダカ・はやぶななどが釣れた！昭和初期。子の神社にリスがいた。昭和初期。(高石神)

わたしの
観察
ノート
No.54

◆大町公園より

- ・ベニマシコを見ました(11/6)。以前に見たのも11月でした。
- ・アカゲラが今冬もやって来ました。最近では、冬の常連さんです(12/4)。

金子謙一(自然博物館)

- ・ミドリシジミの卵をハンノキの太い枝で見つけました(11/29)。産卵されたのは6月で、卵のまま越冬し、春先にハンノキの新芽を食べて成長します。

清野元之(自然博物館)

◆国府台江戸川周辺より

- ・アオバズクを見ました(11/7)。この時期に姿を見たのは初めてです。

秋元久枝さん(国府台在住)

- ・ミサゴが上流に向かって飛んでいく姿を見ました(11/4)。1991年12月以来9年ぶりのことです。

◆里見公園より

- ・アカハラ(11/12)、ルリビタキ(12/3)、トラツグミ(12/17)をそれぞれ初認しました。

◆じゅん菜池公園より

- ・池にカモの仲間のアメリカヒドリが1羽いました(11/4)。

◆堀之内貝塚公園より

- ・マミチャジナイが1羽いました(11/3)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆小塚山市民の森より

- ・エナガを見ました。メジロ、コゲラ、シジュウカラの群れに混じって2羽いました(12/27)。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・ツチイナゴを見ました(11/18)。成虫で越冬をするイナゴです。

小川 晃(自然博物館)

◆市川北高校付近より

- ・今冬もタゲリを2羽見ることができました(12/16)。

高橋富子さん(大野町在住)

◆北方ミニ自然園より

- ・クイナが水路で餌を探していました(12/22)。

宮橋美弥子

◆旧江戸川より

- ・オオバンを3羽見ました(12/5)。ユリカモメがずらりと並んでいる側をのんびりと歩いていました。

金子謙一

◆江戸川放水路より

- ・ツバメを2羽見ました(11/3)。

石井信義さん(菅野在住)

◎11月は暖かくて雨が多く、12月は冬らしい安定した晴天が続きました。



行事案内



§ 申込の必要な行事です §

自然観察会

毎月テーマを変えて、市内各所に出かけます。内容により対象が異なります。

●対象：親子（旧親子コース）…親子向けの内容で、楽しみながら自然に親しみます。

定員 先着10組

●対象：一般（旧一般コース）…大人向けの内容で、じっくりと観察し、分類や環境などについてわかりやすく解説します。定員 先着20名

| テーマ | 対象 | 日時 | 場所 | 受付開始 |
|---------|----|------------|---------|--------|
| 早春の長田谷津 | 親子 | 3月24日(出)午前 | 自然観察園 | 3月3日～ |
| | 一般 | 3月25日(日)午前 | | |
| 春の野草 | 一般 | 4月15日(日)午前 | 堀之内貝塚周辺 | 3月24日～ |

申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名、参加希望日を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

§ 申込の必要はありません § 直接会場におこしください。

柏井散策会

市内で一番大きな雑木林を散策しながら、四季の自然を楽しみます。

申し込みは必要ありません。はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください（交通手段等ご案内します）。

- ・日時 毎月第3土曜日 午後1時30分～3時
- ・天候不良の場合は中止です。
- ・毎回のご案内は、毎月第2土曜日発行の『広報いちかわ・施設ガイド』をご覧ください。なるか、お気軽に博物館までお問い合わせください。

「自然博物館だより」 平成13年度定期購読者募集

送料分の切手をお送りいただければ、年6回発行の「博物館だより」を郵送いたします。

最初の発送は5月上旬頃になります。

- *申し込み方法* 氏名、郵便番号、住所を明記し、送料分の切手（90円切手1枚・80円切手5枚）を同封の上自然博物館までお申し込み下さい。

（博物館だよりはホームページでもご覧いただけます）

臨時休館のお知らせ

2月20日(火)～23日(金)は展示室整備のため臨時休館いたします。

なお、動植物園、自然観察園は平常どおり開園いたします。

市立市川自然博物館だより
第12巻 第6号 (通巻第72号)
発行日/平成12年2月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>